

事業完了報告書（江戸川区教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年7月4日 ～ 令和6年3月1日
調査研究事項	<p>≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫</p> <p>IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>東京都において、昼間部通常学級・知的障害等特別支援学級（固定学級）・夜間学級の3つの学級が併設されている中学校は、本校だけである。その特長を生かした教育活動を推進することで誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現を図ることを本研究調査の1つ目の柱とする。また、新設校であり設備が充実している本校の強みを広く告知することで、今まで施設面での理由から入学を断念していた生徒へ、学習の場を提供していくことを2つ目の柱とする。また、障害のある生徒が夜間学級に通学し、学習活動を行う上で負担となる要素を取り除くことにより、周りの生徒の心の成長と教育活動の充実に関することを3つ目の柱とする。具体的な調査研究のねらいを以下に示す。</p> <p>IV-①知的障害等特別支援学級（固定学級）との交流を通して、パラスポーツの理解と共生社会の形成を目指すことをねらいとする。</p> <p>IV-②上記3つの学級の生徒全員が、秋に実施される開校記念式典に参加しお互いの立場を理解することで、これからの共生社会の担い手を育成することをねらいとする。</p> <p>IV-③本夜間学級は「東京都23区の中で唯一エレベーターが設置されている夜間学級」であることを広く告知することで、設備のために通学できなかった生徒への学習の場を提供していくことをねらいとする。</p> <p>IV-④障害のある生徒が教育活動を行う上での、教育環境・設備面での障害を取り除くことで、学習意欲の増加と教育活動の充実に関することをねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>上記①～④の具体的な成果を以下に示す。</p> <p>IV-①令和6年2月17日（土）の土曜授業の際に、本校の知的障害等特別支援学級（固定学級）及び、昼間部の通常学級の生徒とのボッチャ交流会を実施した。ボッチャという競技を通</p>

して、お互いの環境や習慣等を尊重しながらそれぞれがパラ
スポーツを理解し、お互いを認め合う気持ちを芽生えさせ、
ともに生活をしていく基礎となる共生社会の形成につなげて
いくことができた。計画当初はボッチャの用具を区から借り
ることを検討していたが、他の夜間学級からも借りることが
でき、また、本学級でも1セット購入することで、多くの生
徒が待ち時間なくボッチャを楽しむことができた。

事業計画段階においては教員の指導技術の向上に向けて、
講師派遣を活用する計画を立てていたが、教員同士の実技研
修を行うことにより、教員の指導技術の向上を図ることがで
きたことから、実施計画の変更を行った。事後のアンケート
では、質問項目として「楽しかったか」、「また交流を行
いたいか」の2点について聞いたところ、3つの学級のすべて
において、90%以上の生徒が「楽しかった」「また交流し
たい」と回答するという結果が得られた。

IV-②令和5年10月21日(土)に、本校において、開校記念式
典が行われた。本校にある昼間部通常学級・知的障害等特別
支援学級(固定学級)・夜間学級の3つの学級の生徒会役員
が、記念式典での「誓いの言葉」を分担して話すこととなっ
た。それぞれの学級の国語科教員や生徒会担当教員が計画を
練り、その内容を各代表生徒に指導した。代表生徒同士も、
練習や打ち合わせを重ねるたびに、お互いのことを理解して
いき、昼間部通常学級の生徒が夜間学級の生徒に日本語を教
えたり、夜間学級の生徒が通常学級の生徒に母国語を教え
たりするなど、本校でしかできない交流の在り方を垣間見
ることができた。特別支援学級の代表生徒とは、身振り手振
りを加えながらお互いにコミュニケーションをとる姿が見
られ、ともに生活する仲間意識が育まれた。最終的には、
お互いを認め合う気持ちを一層高め、それぞれの心の成長
を図ることができた。

他の生徒にとっても、本校には3つの異なる学級がある
ことがだんだん浸透しはじめている。たとえば、夜間学級
の生徒も、昼間部の部活動へ参加し始めるなどの現象が
見られ、共生社会への理解やその実現に向けた取組が、
より推し進められるようになっている。

IV-③本校は新設校であり、エレベーターが2基設置されている。

そのため、電動車いすの生徒や半身に麻痺が残る生徒、足腰が悪く、少しの移動でも困難を要する生徒が在籍するようになってきた。そこで、この施設の利点を生かし、東京都にある他の夜間学級では施設的に受け入れることが難しい生徒の受け入れを積極的に行えるようにするために、ポスターを作成し、地域の公共施設や公共交通機関の駅等に掲示し、周知を行ったりした。また、区内の区立中学校に在籍している外国籍の生徒の進学先の一つとして、夜間学級を検討してもらえるよう、各中学校に本校夜間学級のポスターとパンフレットを配布・掲示した。

入級希望者を昨年と比較してみると、昨年度は3月末時点の段階で、入級希望者が11名、入級に関する問い合わせが20件であったのに対し、今年度は2月末時点で入級希望者が12名、入級に関する相談者は30件を超えている。特に今年は、区内の学齢生徒の進学先に関する問い合わせが多くなっている。昨年度よりもより多くの方々に、夜間学級のことを伝えられることが実現できたと考えられる。

IV-④3年生が参加する京都奈良への2泊3日の修学旅行や全校生徒が参加する校外学習において、車いすの生徒や半身に麻痺が残る生徒、高齢の生徒が交通公共機関を利用した移動をした場合、見学場所に着くまでに体力の多くを消耗してしまうことが十分に考えられたため、生徒の移動手段に貸し切りバスを利用することを計画していたが、費用等の問題から、バスを使用する形から方針を変更した。具体的には、各行事において、教員同士が連携して、介助が必要な生徒の対応に当たる等の人的支援を行うことで、同程度の教育活動を実施することができた。

実際の月毎の動き

【7月】

- ・ボッチャの用具準備に関する業務
- ・特別支援学級との打ち合わせ
- ・夜間学級周知資料の作成
- ・校外学習地の選定及び交通手段の検討
- ・夜間学級生徒の、昼間部活動への参加関連業務

【8月】

- ・夜間学級周知資料の掲示開始
 - ・近隣区の広報誌を活用した周知
 - ・校外学習におけるバス業者の選定、連絡
 - ・夜間学級生徒の、昼間部活動への参加関連業務
- 【9月】
- ・夜間学級周知資料の掲示終了
 - ・校外学習事前指導（健常生徒の役割分担）
 - ・夜間学級生徒の、昼間部活動への参加関連業務
- 【10月】
- ・開校式典への参加
- 【11月】
- ・修学旅行事前指導①（健常生徒の役割分担）
 - ・ポッチャを活用した交流についての打ち合わせ①
- 【12月】
- ・修学旅行事前指導②
 - ・修学旅行実施と事後指導、事後アンケート
 - ・ポッチャを活用した交流についての打ち合わせ②
- 【1月】
- ・夜間学級生徒の、昼間部活動への参加関連業務
 - ・ポッチャを活用した交流についての打ち合わせ③
 - ・近隣区の広報誌を活用した周知
- 【2月】
- ・ポッチャを活用した交流授業実施
 - ・周知資料と生徒数の相関関係の検証
- 【3月】
- ・今年度の研究調査のまとめ
 - ・昼間部通常学級・特別支援学級・夜間学級が合同で卒業式を実施し、学校全体で広く夜間学級についての理解の啓発を図る。